
会員増強など、当面の諸課題について研究討議

～中四国ブロック老人クラブリーダー研修会が開催されました～

7月3日から2日間にわたり、『日本最古の温泉』として全国的にも有名な道後温泉や、『現存十二天守』に数えられる松山城がある愛媛県松山市において、本年度の中四国ブロック老人クラブリーダー研修会が行われ、会場となった道後プリンスホテルに中四国ブロックの各県の老人クラブリーダーら273名が参加しました（本県25名参加）。



挨拶に続き、全老連による基調報告が行われ、谷野参事から「健康寿命」と「地域づくり」をメインテーマとし、地域包括ケアシステムにおける見守りや生活支援で、老人クラブに対する期待に応えることができるよう、課題となっている「100万人会員増強運動」を实のあるものにしたいとされました。



続いて行われた分科会は、「会員の加入促進と魅力あるクラブづくりの推進」等、4つのテーマに分かれ、各県からの先進的な事例発表とテーマに基づく参加者による研究討議が行われました。本県からは、第1分科会「健康づくり・生きがいくくり活動の推進」において、「元気な高齢者をめざして」と題して、神山町老連の阿部 久会長が発表、神山町における体力測定や健康ウォークの取り組みについて話されました。

二日目、「あなたの脳は大丈夫？～認知症にならないコツ、脳卒中で倒れないコツ～」と題して、松山市民病院の角南 典生（すなみのりお）先生による記念講演が行われました。特に認知症予防では多くの脳を活性化することが大切であること、脳卒中予防では、高血圧やたばこによりリスクが高まることなどが話されました。

その後、前日に行われた各分科会における討議の概要報告、質疑応答などを行い、最後に次期開催県である広島市老連の会長の挨拶で全日程を終了しました。